

地域とともに歩み、つくった道～横浜北西線～

1. はじめに

1859年の開港以来、横浜市は、横浜港を中心に発展してきました。横浜港を起点とした物流ネットワークの形成は、市内経済のみならず、国内経済の発展にも大きく影響を与えます。本市では、交通ネットワークの形成の一つとして、横浜港と東名高速道路を結ぶ横浜北西線事業を首都高速道路株式会社と共同で進め、事業構想段階から地域とともに歩み、事業を行うことで、当初の予定から2年前倒し、令和2年3月22日に開通することができました。これまでご協力をいただいた地域の皆さま、ご尽力をいただいた関係者の皆さまに、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。



横浜北西線の位置図

2. 横浜北西線の整備効果

横浜北西線の開通によって、市北西部と横浜都心・湾岸エリアとの連絡が強化されたことで、さまざまな整備効果が生まれています。

1) 国際競争力の強化

横浜北線と一体となって東名高速道路と新横浜都心、横浜港、及び羽田空港を直結する新たなネットワークが形成され、国際競争力が強化されました。

2) 災害時の道路ネットワークの信頼性向上

災害時における道路ネットワークの信頼性が向上し、全国から市内各地への救援や物資の輸送ルートが多重化され、災害に対する備えが充実しました。また、初期救急医療体制を担う災害拠点病院へのアクセスが向上しました。

3) アクセス性・物流機能の向上

東名高速道路と横浜港が直結し、所要時間が短縮することで、アクセス性が大幅に向上して物流の効率化が図られ、横浜港の発展及び経済活性化が期待されます。

4) 周辺道路の交通渋滞の改善

保土ヶ谷バイパス等の周辺道路及び横浜北西線沿線地域からの交通転換が図られ、交通渋滞や生活環境の改善に寄与します。

3. 地域とのさまざまな取組み

横浜北西線は、大きな整備効果を生む重要な路線であり、市民の皆さまから早期開通が望まれていたため、整備にあたり沿線地域と連携して事業に取り組みました。また、沿線地域の活性化に向けて、事業にあわせて沿線のまちづくりをご支援してきました。

1) PI手法の導入

横浜北西線事業においては、構想段階から関係する地域の皆さまに情報を提供しつつ、広くご意

横浜市長 **林** はやし
文子 ふみこ



見を伺い、それらを計画づくりに反映するPI（パブリックインボルブメント）手法を日本で初めて本格的に導入しました。

PIでは、横浜北西線の必要性や概略計画案について議論し、その過程で13ものルートが検討されるなど、市民の皆さまから多くの意見を取り入れ、概略計画を策定することで、横浜北西線事業への理解を深めることができました。

2) 地域活動の振興

横浜北西線沿線において、地域活動の振興を図るため、地域の皆さまとともに横浜北西線のトンネル上部を利用した福祉・保健施設の建設計画について検討を重ね、令和3年の開設に向けて整備を進めています。

3) 地域交通の課題の解消

横浜北西線沿線の地域交通に課題のあるエリアにおいて、高齢者の買物や通院など日常生活の移動をご支援するため、施工業者より車両の提供を受け、地域の皆さまが自ら運行するバス事業を開始しました。

4) 地域農業の活性化

横浜北西線沿線の一部地域は、横浜市の名産である「浜なし」の産地であったことから、地域の皆さまと連携して農業に関する勉強会や「浜なし」の直売会の開催をご支援しました。これらの取組を経て地元組織が発足するなど、地域農業の活性化が図られています。

5) 換気所デザインの検討

換気所の建設においては、周辺地域の特性を考慮し、計画段階から沿線地域の皆さまとの対話型

の意見交換会や事業説明会でいただいた意見をもとに、有識者の助言を取り入れデザイン検討をすることで、周辺環境と調和した施設となりました。



横浜北西線 東方換気所

4. おわりに

地域の皆さまのご協力を得て開通した横浜北西線は、令和2年3月の開通以来、多くの方にご利用いただいています。引き続き、横浜をより豊かな都市にするため、更なる交通ネットワークの形成を進めていきます。横浜にお越しの際は、魅力ある都市、横浜をぜひご堪能ください。



横浜北西線 港北ジャンクション